

# 地域医療・ 総合相談センター

より良い療養と  
社会生活のために

患者さんを中心に、多くの職種の  
メンバーがそれぞれの専門性と役

し、手すりの設置などの改善点を検  
討することもあると言う。

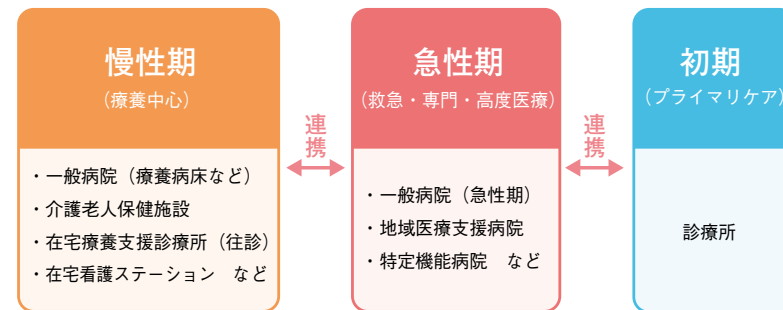
大切なのは地域との  
良い関係づくり

入院中の患者さんや外来から相談  
があれば、相談内容や患者さんの希  
望、状態に合わせて、看護師やソー  
シャルワーカーをはじめ専門スタッ  
フが対応する。

看護師とソーシャルワーカーは毎  
朝のミーティングで、患者さんの状  
態や進行状況の報告、今後の方針など  
を検討するほか、病棟での合同カン  
ファレンスにも出席し、医師や病棟  
の看護師、理学療法士とともに、患  
者が退院後、もしくは転院先でど  
のようなサポートやリハビリが必要  
かなど、細かい情報収集を行う。「退  
院後、患者さんがどのように過ごさ  
れるのがいいのか、受けられるサー  
ビス・支援も含めて具体的な内容を  
検討し、調整します」。業務の中には、  
院外医療機関からの紹介や逆紹介、患  
者さんの他院への外来診察予約受付、  
セカンドオピニオン外来の予約受付  
など、地域の医療機関との連携支援業  
務もある。在宅でのケアが必要な場

割を大切にしながら協力して行  
うのがチーム医療だが、地域の中  
でも、初期診療を行う診療所や、手術  
治療などを行う急性期の病院、療養  
中心の慢性期の病院、あるいは在宅  
療養をサポートするための在宅看  
護ステーションなど、多くの機関が  
ある。これらが連携してそれぞれ  
の役割を果たしてこそ、患者さん  
を中心とした良い医療が実践される  
と言える。

## 医療機関等の役割



2006年12月に開設された兵  
庫医科大学の地域医療・総合相談セ  
ンターは、患者さんやそのご家族が  
適切でより良い療養および社会生活  
が営めるよう、受診相談のほか、医  
療福祉や看護、薬、栄養などの相談、  
スムーズな退院や転院・在宅療養の  
ための支援などを行う。また、特定  
機能病院としての役割を果たすた  
め、地域の医療機関などとの連携を  
推進する幅広い活動を行っている。

## 地域医療・総合相談 センターの役割

「以前は社会保障制度など福祉に  
関する相談・支援はソーシャルワー  
カーだけで行っていました。在宅  
医療などに関して地域の開業医や訪  
問看護ステーションと協力してい  
くためには、看護師の力が必要にな  
ってきました」とセンター開設の経緯  
について語るのはソーシャルワー

開催し、医師会をはじめ多くの医療  
機関に参加を呼びかけている。また、  
近隣の病院などの窓口担当になっ  
ている看護師やソーシャルワーカー  
が集まる実務者連絡会では、業務の  
改善点などを話し合い、連携を深め  
ている。「顔の見える関係だからこ  
そ、紹介した患者さんに対しては親  
身になってくれる」と波々伯部さん。  
院内だけでなく、地域という広い観  
点で患者さんのための医療を実践し  
ていると言えよう。

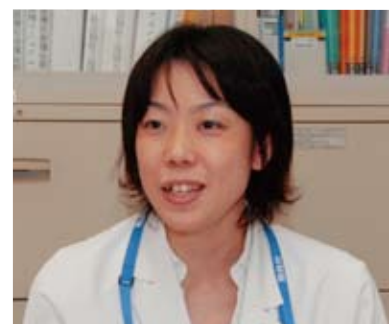
## 患者さんの気持ちを 忘れずに

ソーシャルワーカーの廣部麻由  
子さんによれば、「こちらが大丈夫  
だろうと思っていることでも、患者  
さんやご家族が不安に思っている場  
合もある」と言う。「患者さんの立場  
に立って話を聞き、患者さんの考え  
や想いを病棟やセンターのスタッ  
フに積極的に提供することを意識して  
います」。

また、波々伯部さんは「転院の話  
をする時には『追い出される』と感じ  
てしまう患者さん多いんじゃないか  
と顔を曇らせる。特定機能病院であ

カーの木村 亜紀子さん。「福祉制度  
に強いのがソーシャルワーカー。医  
療については看護師が専門。お互い  
の情報をミックスさせて最良の方法  
を探していきます」。

相談では、医療費のことや、どの  
ような助成・サービスが受けられる  
かといったものが多いと言う。看護  
師の波々伯部公美さんは「地域の中  
では当院のNICU（新生児集中治  
療室）が重要な役割を果たしており、  
生まれた赤ちゃんのためにどのよ  
うな制度が利用できるのかという  
ご相談もあります」と話す。そのほ  
か、社会保障サービスや、在宅で療  
養するために必要となる用具の購入  
やレンタルの手配など、患者さんの  
生活を支えるあらゆるサポートを行  
う。ソーシャルワーカーが理学療法  
士とともに患者さんのご自宅を訪問



ソーシャルワーカー  
木村 亜紀子さん



ソーシャルワーカー  
廣部 麻由子さん

る兵庫医科大学では、多くの患者さ  
んを救うため、治療が終われば療養  
型の病院や在宅での療養へと移って  
もらわざるを得ない。「私たちは特  
定機能病院、急性期の病院、療養型の  
病院などそれぞれの役割があると  
わかっていますが、患者さんからは、  
どうして完全に治るまでいられな  
いのかと言われてしまう。特定機能  
病院としての役割をしつかりとご  
理解いただくことに努めています」。

毎日の仕事としているスタッフ  
にとっては当たり前のことでも、患  
者さんやご家族にとっては初めての  
ことが多い。「病院に運ばれた直後の、  
不安でたまらない患者さんの気持ち  
を忘れないように日々の仕事をして  
います」と木村さん。患者さんとまっ  
すぐに向き合うスタッフによって、  
地域医療は支えられている。



看護師  
波々伯部 公美さん

合は、ご自宅の近くの訪問看護ステ  
ーションや往診してくれる開業医を探  
す。普段からの各施設の情報収集や  
関係の構築も大切になってくる。  
「外部の医療機関との合同カンファ  
レンスや、処置の方法を見ていただく  
場を設けるなどして、実際にお会い  
しながら信頼関係をつくっています」  
と波々伯部さん。センターに所属す  
る慢性疾患看護専門看護師や皮膚・排  
泄ケア認定看護師が、訪問看護ステ  
ーションの担当者を対象に勉強会を開  
いたり、在宅に戻る時に処置の仕方な  
どの情報交換、指導を行うこともある。  
ソーシャルワーカーの木村さんも  
「病状ではなく患者さんの“生活”を  
中心として地域の医療機関や制度を  
うまくつなげていきたい」と話す。  
そのため、地域医療懇談会や地域医  
療フォーラム、院内外勉強会などを